

16番	新井亜由美 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
1. 障害児・者の紙おむつ給付事業（瀬戸市地域生活支援事業日常生活用具給付）の拡充を 【質問趣旨】 瀬戸市地域生活支援事業の中には、障害児・者への日常生活用具給付事業があり、対象となる障害児・者へ月12,000円分の紙おむつやパット等が支給されている。 対象者や金額などは市の裁量で決めることができるため、近隣の市町と比較すると差が生じている。また物価高の影響でおむつ代も高騰しており、給付額の範囲内では支給が困難で実費負担も増えている。 対象となる障害児・者への適切な周知と給付対象者や額の拡充を求め質問する。	(1) 障害児・者への紙おむつ等の給付について (2) 対象者の要件について	① 事業の目的を伺う ② 紙おむつの給付について、日常生活用具給付の対象品目一覧の中の対象者の要件である「障害及び程度」が令和4年4月1日から改正されているが、改正内容を伺う。 ① 尾張旭市や長久手市と比較すると、本市の要綱では「障害及び程度」が細かく示されており、身体障害者手帳と、重度の知的障害者に交付されるA判定の療育手帳両方の所持が条件となっている。近隣2市では条件となっていないA判定の療育手帳の所持が条件となっている理由を伺う。 ② A判定の療育手帳を所持していることが要件であることによって、療育手帳を取得していない方や、B判定の療育手帳を所持している方などは、給付の対象外となり尾張旭市や長久手市よりも対象者が狭まっていると考える。要綱の記述を「身体障害者手帳と療育手帳（A判定）を取得した者」から「療育手帳（A判定）」の部分を削除し、対象者の枠を拡充すべきと考えるが見解を伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。

2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。

3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

16番	新井亜由美 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
	(3) 物価高騰の影響と紙おむつ給付の拡充について	① 尾張旭市では身体障害者手帳を所持していない知的障害児・者で療育手帳のA・B判定の方にも、紙おむつ等の給付が実施されている。過去4年間の実績は、対象者である療育手帳A・B判定の方の約3割が利用しており、令和4年度の事業費は2,574,000円で一人あたり年約22,000円分のおむつ等が支給されている。瀬戸市でも、身体障害のない知的障害児・者で、紙おむつやパット等の購入の補助または現物を給付する事業を検討すべきと考えるが見解を伺う。 ② 物価高騰はあらゆるものに影響を及ぼし、紙おむつの購入による経済的な負担が大きく給付額の拡充を求める声も少なくない。例えば以前は給付額の月12,000円で支給されるオムツで1か月賄えたが、値上がり後は毎月1袋約2,500円から3,000円分、年間約30,000円から36,000円の実費負担増となっている方もいる。紙おむつの価格が1.2倍から1.25倍に値上がりしているということになる。物価高が障害児・者の生活に大きな影響を与えている実態について、窓口に届いている声や、給付額の拡充に対する見解を伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

16番	新井亜由美 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
2. セとここほっとルームの1日も早い整備を 【質問趣旨】 学校に行きづらい子どもたちが増え続けている中「不登校対策」も広がってきており、「学校か自宅」かの選択ではなく、それ以外の選択肢も広がってきた。本市では校内の居場所として「セとここほっとルーム」を昨年度は7月から市内の4中学校に、今年度は残りの3中学校に設置し、登録・利用人数も増加し、子どもたちや保護者、学校からも喜ばれている。 今年度スタートした3中学校は、夏休み中に工事を行い環境を整える予定だったが、活用できる交付金が来年度以降しか申請できなくなり、工事が延期となった。	(1) 学校に行きづらい子どもたちの現状と課題の位置づけ (2) セとここほっとルームについて (3) 利用状況と効果	① 本市の不登校児童生徒数の推移は、近隣市町や全国平均と比べてどのような状況にあるか伺う。 ② 不登校の対策については、2022（令和4）年度には、校長会から「子どもたちの Well-being を目指し、児童生徒の不登校は、今年度の解決に向けた対策を打ち出したい最重要課題である」と市長に提示された。また、同年の瀬戸市教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書（対象：令和3年度）の総評においても「最重要課題」と位置付けられているが、現在の位置づけはどのようなか伺う。 ① セとここほっとルームがどのような場所であるか、設置の目的と役割、設置までの経過を伺う。 ② 設置と運営に要する費用はどのような財源を活用しているか、市独自の財源と国県の補助等の割合を伺う。 ① 登録児童生徒数の推移と利用状況を伺う。 ② セとここほっとルームが設置されたことによる、児童・生徒、保護者、教職員、学校等の変化や効果について伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。

2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。

3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

